

泌 尿 器 科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) プライマリーケアを含む診療を適切に実施する能力の育成
- 2) 泌尿器科的基本能力の修得、治療の意義、原理の理解
- 3) 全身および局所管理の実施能力の修得
- 4) 高度の専門性を身につけた臨床医の育成

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度－12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	1人	2人	6人	1人
研修期間	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：0人

平成12年度：3人、研修した他科名：第3内科、麻酔科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	0人	0人	0人	0人

(3) 指導体制について

- 1) 指導医の指導下に外来および入院患者の診療（マンツーマン方式）
- 2) 外来、入院患者について臨床研修
- 3) 教授、助教授により診療・研修指導

(4) 研修の評価について

- 1) 大分医科大学附属病院「卒後臨床研修ローテーションの手引」に準じ4段階評価。
- 2) 4段階評価に未到達者に対する重点的指導。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 国立大分病院 2) 南海病院 3) 新別府病院 4) 東国東広域病院
- 5) 大分赤十字病院 6) 別府中村病院 7) 高田中央病院 8) 西田厚德病院
- 9) 中津第一病院

(6) 臨床教授

なし

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度－12年度）

1) 認定医・専門医・指導医等の取得状況

- a. 日本泌尿器科学会／認定医 7 名、指導医 3 名
- b. 日本透析医学会／認定医 4 名、指導医 3 名
- c. 日本腎臓学会／認定医 1 名、指導医 1 名

(8) 学会認定施設の状況

- 1) 日本泌尿器科学会認定施設
- 2) 日本透析医学会 〃
- 3) 日本腎臓学会 〃

※今後の課題と改善策

- ・日本泌尿器科学会、日本透析医学会への完全加入と認定医試験の受験促進
- ・日本腎臓学会への加入促進

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

- 1) 尿路、性器悪性腫瘍に対する化学療法の確立。
- 2) 尿路、性器悪性腫瘍に対する排尿ならびに性機能温存手術の開発。
- 3) 泌尿器科疾患に対する最小侵襲手術の開発。

(2) 研究スタッフ

- 1) 教授 1 名、助教授 1 名、講師 1 名、助手 5 名
- 2) 実験助手（非常勤職員を含む） 2 名
- 3) 事務職員（非常勤職員を含む） 1 名

(3) 研究領域と研究課題（対象期間：平成 9 年度－12 年度）

主な研究課題名

- 1) 腎不全におけるエリスロポエチン受容体の機能解析
- 2) 外尿道括約筋再生による尿失禁の克服
- 3) 前立腺癌におけるアポトーシス制御機構の解明

(4) 博士（医学）の学位の取得状況（平成 9 年度－12 年度）

年 度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
取得者数	1 名	1 名	1 名	1 名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本泌尿器科学会	野村芳雄（監事）
日本泌尿器科学会西日本支部	野村芳雄（理事） 三股浩光、田崎義久 佐藤文憲、江本昭雄（評議員）
日本透析医学会	野村芳雄（評議員）
日本内分泌外科学会	野村芳雄（評議員）
日本Endourology・ESWL学会	三股浩光（評議員） 野村芳雄（評議員）
腎移植・血管外科研究会	野村芳雄（世話人）
九州人工透析研究会	野村芳雄（幹事）
九州CAPD研究会	野村芳雄（監事）
九州腎臓移植研究会	野村芳雄（幹事）
日本アフエシス学会九州地方会	野村芳雄（世話人）
九州泌尿器科懇話会	野村芳雄（幹事） 三股浩光（幹事）

(6) 研究論文（英文、和文）（平成9年度－12年度）

- 1) Mimata H. et al: Three approaches for laparoscopic unroofing of simple and complicated renal cyst. Int. J. Urol. 4 : 212-218, 1997
- 2) Mimata H. et al: Muscarinic receptor subtypes and receptor-coupled phosphatidylinositol hydrolysis in rat bladder smooth muscle. Int. J. Urol. 4 : 591-196, 1997
- 3) Nakagawa M. et al: Induction of tubulogenesis of microvascular endothelial cells by vascular endothelial growth factor (VEGF) in renal cell carcinoma. Brit. J. Urol. 79 : 681-687, 1997
- 4) Emoto A. et al: Induction of tubulogenesis of microvascular endothelial cells by basic fibroblast growth factor from human SN12C renal cancer cells. J. Urol. 157: 699-703, 1997
- 5) Hanada T. et al: Erythropoietin-producing renal cell carcinoma arising from acquired cystic disease of the kidney. Int. J. Urol. 5 : 493-495, 1998
- 6) Mimata H. et al: Simple technique of ligation and division of dorsal vein complex during retropubic radical prostatectomy. Techniques in Urol. 5 : 104-105, 1999
- 7) Mimata H. et al: Prediction of Alpha-blocker response in men with benign prostatic hyperplasia by magnetic resonance imaging. Urol, 54 : 829-833, 1999
- 8) Nakagawa M. et al: Calcium supplement necessary to correct hypocalcemia after total parathyroidectomy for renal osteodystrophy. Int. J. Urol. 7 : 35-40, 2000
- 9) Hanada T. et al: Prognostic value of tumor-associated macrophage count in human bladder cancer. Int. J. Urol. 7 : 263-269, 2000
- 10) Toshikatsu H. et al: Erythropoietin-producing renal cell carcinoma arising from acquired cystic disease of the kidney, Review Series Oncology, The Schring-Plough Journal of Oncology, 31, 2000

(7) 高度先進医療開発研究の現状

腎悪性腫瘍に対する腹腔鏡下根治的腎摘除術の開発

※今後の課題と改善策

- ・尿路再建術、腎保存手術に対する腹腔鏡手術の応用
- ・尿路平滑筋再生の臨床応用

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 泌尿器科悪性腫瘍に対する腎保存ならび尿路再建術による患者のQOLの改善。
- 2) 尿路結石に対する非解放手術など最小侵襲手術の実施。
- 3) 腎不全治療の充実。内視鏡手術の実施。

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	10,190人	10,358人	10,085人	9,869人
初 診 患 者 数	574人	471人	460人	478人
紹 介 患 者 数	321人	272人	276人	275人
入 院 患 者 数	10,492人	10,675人	10,950人	11,027人
平 均 在 院 日 数	34.4日	30.8日	33.9日	29.6日
平均病床稼働率	95.8%	97.5%	99.7%	100.7%
死 亡 退 院 率	1.9%	0.9%	3.8%	1.4%
剖 検 率	16.7%	33.3%	8.3%	80.0%

(3) 特殊検査・手術症例等

軟性内視鏡検査、内視鏡的尿路結石碎石術、体外衝撃波碎石術
内視鏡手術

(4) 特殊専門外来

腎不全外来
前立腺疾患外来

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

内視鏡下根治的腎摘除術
尿道括約筋再生による尿失禁治療

※今後の課題と改善策

- ・高度先進医療の積極的導入と腎不全医療のうちとくに腎移植の普及と発展を図る。
- ・最小侵襲手術の充実を図る。

4. 国際交流について（平成9年度－12年度）

(1) 国際医療協力体制

河北医科大学との国際交流協定

(2) 留学（長期外国出張）

なし

(3) 外国出張（国際学会活動など）

平成9年

92nd Annual Meeting of American Urological Association 3人 アメリカ合衆国88th Annual Meeting of American Association of Cancer Research 3人 アメリカ合衆国24th Congress of International Society of Urology 3人 カナダ

Second Japan-America Peritoneal Dialysis Consensus Session 1人 アメリカ合衆国

平成10年

Special Conference of American Association of Cancer Research 2人 アメリカ合衆国

89th Annual Meeting of American Association of Cancer Research 2人 アメリカ合衆国4th International Symposium of Cancer Prevention 2人 フランス

平成11年

90th Annual Meeting of American Association of Cancer Research 3人 アメリカ合衆国

Second International Consultation on Prostate Cancer 5人 フランス

16th Korea-Japan Urological Congress 5人 韓国

AACR-NCI-EORTC International Conference "Molecular Targets and Cancer Therapeutics" 2人 アメリカ合衆国

平成12年

5th Congress of Asian Urological Association 2人 中華人民共和国25th Congress of International Society of Urology 3人 シンガポール

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的		特別研究学生	外国人客員研究員	
受入人数		1名	1名	
出身国名		中 国	中 国	
滞在期間		1年	6ヶ月	
費用負担		奨学金	国 費	

※今後の課題と改善策

・河北医科大学との国際交流協定に基づき、国費外国人留学生の積極的な受け入れを図る。

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度－12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
第16回大分人工透析研究会	H9.8.30	250名	口 演	
第72回九州泌尿器科懇話会	H9.11.15	100名	"	
日本泌尿器科学会第33回大分地方会	H9.12.6	40名	"	
第1回大分前立腺研究会	H10.3.5	30名	"	
日本泌尿器科学会第156回熊本・第34回大分合同地方会	H10.7.11	50名	"	
第17回大分人工透析研究会	H10.8.29	300名	"	
第31回九州人工透析研究会	H10.11.29	1,200名	"	
日本泌尿器科学会第35回大分地方会	H10.12.5	50名	"	
第2回大分前立腺研究会	H11.3.27	30名	"	
第18回大分人工透析研究会	H11.8.28	300名	"	
日本泌尿器科学会第37回大分地方会	H11.12.5	50名	"	
第3回大分前立腺研究会	H12.3.23	40名	"	
日本泌尿器科学会第38回大分地方会	H12.7.15	50名	"	
第19回大分人工透析研究会	H12.9.2	300名	"	
大分頻尿・尿失禁研究会	H12.9.8	35名	"	
日本泌尿器科学会第39回大分地方会	H12.12.2	45名	"	

※今後の課題と改善策

- ・コメディカルを含んだ学会・研究会の積極的開催
- ・周辺領域の医療に関する学会・研究会の開催
- ・既存学会の充実

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

なし

※今後の課題と改善策

- ・地域における研修会等の積極的開催

7. 診療科の特色

泌尿器科領域における最小侵襲手術の導入・実践

尿路・性機能温存手術の開発・実践

腎不全医療の充実

8. 将来展望

腎不全医療の充実とともに腎移植（献腎移植）症例の増加を図る。

特殊外来（腎不全外来等）の充実を図る。

最小侵襲手術の拡大と手術適応拡大。